

## 型にとられない柔軟性

就実大学四年（岡山県）

田淵 美奈

未曾有の事態となったことによる部活動の実施形態の変化は、私にとって悪いことだけではなかった。なぜなら私の茶道への認識を変えるきっかけになったからである。

私が以前まで持っていた茶道の認識は、決められた型に沿って行うことが美德である、というものであった。しかしながら、昨年四月から現在までの約一年半の部活動を通じてその認識が正確ではなかったと実感した。

最初に、コロナ禍における私たちの茶道部の様子を知っていたきたい。

昨年、私が三年生の四月から夏休みにかけては、学内への立ち入りが制限され、一度も部活動を行うことができなかった。九月からは部活動を再開できたものの、大学祭をはじめとする年間の茶会は軒並み中止となった。そのため、当時の先輩たちから茶会についてのノウハウを十分に教わることは難しく、さらに年明けから再び学内への入校が制

限されたことで、卒業茶会もできないまま先輩方は卒業することになってしまった。

現在、私は四年生となり後輩を導き、活動の指針を示していかなければならない立場となった。時を同じくして学校が提示する部活動制限もより強固なものとなり、部活動は五人以内、かつ三時間以内で行わなくてはならなくなったのである。その結果、新入部員を迎え十五人となった茶道部は、個々人が十分に稽古に励むことは難しくなってしまった。

そのような環境下で、上級生として後輩を指導すること、そして何より茶室から感染者を出さない方法で活動することが求められるようになったのである。外部でのお茶会は自粛の意向で進んでいったが、大学祭に関しては学校からの伝達の都合もあり、どのように開催すべきか考えあぐねていた。茶道部は大学祭にて茶会を催すことが恒例となっている。昨年の大学祭はオンラインで行われ、茶道部としては部活動紹介の動画を流すのみにとどまった。茶会ができなかったことは本当に残念で、来年こそは茶会を開きたいと思っていたのである。しかしながら今年もオンライン開催になると報告を受け、四年生としては現状を鑑み、茶会を開くことは難しいだろうと諦めることを選んだ。

その旨を先生にお伝えしたところ、オンライン茶会を行えばいいのではないかとアイデアをいただけたのである。

お茶のお稽古はメモを取ることも、写真を撮ることも禁止されていることから、茶会の様子を流すなんてことはしてはならないとばかり考えていた私は、「そんなこととして大丈夫なのか？」という気持ちでいっぱいになった。先生は続けて、オンライン茶会を各地で開催していること、できないと決めつけるのではなく、おかれた環境下で自分たちが出来ることに挑戦してみることが大切であることを教えてくださった。先生の言葉をきっかけに自分が固定観念にとられていたことに気づかされたのである。非常事態こそ、広い視野で自分達ができることを考え、意見を出し合い、実現可能かを先生に相談するという工程を重ねることが重要であると気づいたのである。茶道部、ひいては茶道という文化を途絶えさせないためにも、日々新たなことに挑戦することや柔軟な考え方が大切なのだと知ることができた。

現在、茶道部はオンラインで意見を交わすことでオンライン茶会に向けて動き出した。映像を見てくれた方々に茶道の奥深さや楽しさを感じてもらえることを第一に考え、茶道が作法や古来より続く伝統を大切にすることでなく、時代に合わせて変化していることも伝えたいと考えている。そして私たちの茶会を通じて、茶道に興味や関心を持つ人が増えると喜ばしい。

型にとらわれない柔軟な考え方の重要性を知ったことで、私生活でも多角的に考え発想を膨らませることができるよう

うになった。茶道の稽古を通じて、技術が向上することはもちろんのこと、内面的にも成長できることを改めて実感した。今後もより一層稽古に励み、内面も共に成長し続けたい。